

スポーツ参画人口の拡大について

- 従来の体育の概念は、「体を鍛える」ことだったが、スポーツは、人と関わり、楽しく行うもの。人と競わず、音楽と組み合わせることもできる。ダンスのような、年代や性別に関係なく、誰もが楽しめるスポーツにより、健康づくりも楽しく進めるべきではないか。
- 府内のたくさんの場所で、楽しむスポーツづくりに取り組んでいく。スポーツを中心に、大阪を楽しく、元気にしていく。例えば、たこ焼きを食べながら、スポーツを楽しむなど、固定概念にとらわれず取り組むべきではないか。
- 若者のスポーツ離れ、二極化も言われるが、体験の格差につながる問題。スポーツを通じて、人と関係を作る、つながりを構築する経験まで失われてしまう。

固定概念にとらわれず「楽しむスポーツづくり」という発想。スポーツで大阪を明るく、元気にしていく。人とのつながりの回復・創出をスポーツで図るべきではないか。



スポーツと健康づくりについて

- コロナの影響は、運動を通じた健康増進の面にも及んでいる。生活習慣病の診療現場でも、運動不足・体力低下を実感、また、大学でも、学生の運動習慣が減っている。
- 高齢者については、体力低下だけでなく、認知症の面でも影響が出ていると思われる。
- 膝や腰に痛みがあると、運動してはいけないという思い込みがある。
- 生活習慣病の人の運動（療法）は、リハビリと捉えられているが、運動療法も含め、広い意味でのスポーツと捉えて、スポーツと健康・医療の取組みを一体となって進めるべきではないか。
- スポーツと健康・医療の関わりについて、救護の場面だけでなく、特定保健指導におけるスポーツの活用など、大阪には既存の資源があるのだから、有効活用できるよう、横の連携を強化し、多様な主体が関わっていくべきではないか。
- 健康づくりの場面でも、アプリの活用など、スポーツのDX化は重要なポイント。
- スポーツの重要な要素として、コミュニティの中で行うことがある。一緒にスポーツをすることで認知症予防にもつながる。
- スポーツを通じ、顔の見える関係を構築することが、防災や地域活性化などスポーツ分野にとどまらない価値を生み出すのではないか。
- 安心・安全に滞在できることは都市魅力の重要な要素。それは、スポーツやイベントの場面にも言えるのではないか。例えば、大阪マラソンのように、大阪では、スポーツと医療機関の連携ができています。大阪では安心してスポーツできることを発信し、大阪でスポーツを安心してできる仕組みづくりをより進めることは重要ではないか。

多様な主体が連携し、スポーツを通じて、ココロとカラダの健康づくり、顔の見える関係の構築。大阪では安心してスポーツできる、そのような魅力を発信できないか。

スポーツの価値と力について

- 毎日のラジオ体操など、コツコツとした積み重ねが健康な生活を形成していく。
- 競技スポーツで重要なのは、勝ち負けではなく、その過程で得られたもの、すなわち、人とのつながりやリーダーシップではないか。スポーツとは、社会で通用する人間を育てるものと考える。
- 地域での身近なスポーツと競技スポーツ、様々なスポーツを組み合わせ取組みにより、地域活性化や健康・生きがいづくりにつなげていくべきではないか。
- スポーツと文化・ファッションなどの組み合わせにより、大阪に来てよかったと、+αの楽しみを生み出していけるのではないか。
- 大阪には、スポーツの資源がたくさんあり、それらを活かして、スポーツの価値と力を広めていくべきではないか。
- 例えば、車いすバスケットを実際に見ることで、自分もチャレンジしようと思うようになる。そうした力がスポーツにはある。

スポーツは、その活動・過程を通じて、人を育て、社会を形成する力を有するもの。大阪には魅力的なスポーツ資源が多数あり、それらを有効に活用して、楽しさを生み出していくべきではないか。

コロナ等スポーツを取り巻く状況について

(大阪観光局)

- コロナにより、イベントの中止や入場制限が行われるなど、観光産業自体が大きなダメージを受けているが、コロナ禍の中でもできる取組みが模索されている。
- 一方、コロナよりも、気候変動対策が今後、重要ではないか。観光産業においても、排出ガス対策が求められており、その影響はスポーツツーリズムの分野にも及んでくる。変化の時期であり、新たな課題に挑戦していかないといけない。

(大阪市)

- コロナの影響を受け、市においても、半分程度の事業実施となっている。それを、感染防止対策を徹底し、工夫をこらしながら、少しでも多くの事業を実施できるよう取り組んでいるところ。
- 市もビジョン策定に取り組んでいるが、スタジアム・ツアー実施等のスポーツツーリズムの推進を盛り込むこと、また、障がい者スポーツについては、特化ではなく、各施策の中での取組みとあわせて取り組むことを考えている。部活動改革の学校教育に関する部分は、どのようにすべきか、考えているところ。
- スポーツ実施率については、スポーツだけの取組みで達成するのは困難であり、関係部局の取組みとどのように関連させるかが重要と考えている。

(大阪商工会議所)

- 現在のコロナの状況が収束しても、民間企業の動向やビジネスマンの生活様式を見ても、元の状態には戻らないのではないか。その認識を前提として、スポーツの力で、どのように元気を回復するかを、産業界の力を使って、進めていくのが重要ではないか。
- スポーツ×エンターテインメント×テクノロジーにより、スポーツの力を拡大していくべきではないか。